

IV

研究活動

栄養クリニック この15年の「研究活動」を振り返って

はじめに

本学の栄養クリニックは、文部科学省が定める条件（設立から3年の活動実績と安定した継続的な共同研究ができる人員構成並びに学内予算配分などの運営体制が整っていること）を満たしており、大学附属研究所として認可されている。そのため、栄養クリニックの目的の一つに「研究活動」が挙げられている。設立15年目を迎えたことを機に、これまでの栄養クリニックの研究活動を簡単に振り返ってみたい。

1. 学会発表

栄養クリニックの運営が軌道に乗った2011年度から学会発表を行っている。発表件数は表に示す通りで、これまでに20件の発表が行われている。2021年度と2022年度は新型コロナウイルスの影響のため発表ができていないが、今後は発表を再開できればと考えている。

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
件数	4	0	0	1	1	2	1	3	4	4	0	0

【第10回日本栄養改善学会近畿支部学術総会】（2011.12.11 奈良）

- ・肥満者の食・運動習慣と体組成の実態調査 ～DXA・MRI・BIA法を用いた検討～ 姜貴順ほか
- ・肥満者の食事摂取量と体組成の関係 ～脂質・砂糖・嗜好品を中心とした検討～ 繁田沙織ほか
- ・肥満者の栄養指導における体組成の改善 長谷川真実ほか
- ・肥満者の栄養指導による食・運動習慣および体組成の変化 山本里美ほか

【第13回日本栄養改善学会近畿支部学術総会】（2014.12.7 京都）

- ・耐糖能異常群と正常群における食嗜好傾向の違いについて 日野千恵子ほか

【第62回日本栄養改善学会学術総会】（2015.9.24-26 福岡）

- ・高齢者の骨密度と食生活との関連性について 宮崎由子ほか

【第63回日本栄養改善学会学術総会】（2016.9.7-9 青森）

- ・身長低下を取り入れた老人福祉センターにおける骨粗鬆症検診の試み 中村智子ほか
- ・老人福祉センターにおける下肢筋力測定を取り入れたサルコペニア検診の試み 日野千恵子ほか

【第64回日本栄養改善学会学術総会】（2017.9.13-15 徳島）

- ・運動器検診受検高齢者におけるカルシウム摂取由来食品の検討 中村智子ほか

【第65回日本栄養改善学会学術総会】（2018.9.3-5 新潟）

- ・骨密度低値高齢者における食事内容の特徴 徳本美由紀ほか
- ・親子料理教室での「だし」を中心とした味覚体験学習の実践例 木戸詔子ほか

【第22回日本病態栄養学会年次学術集会】（2019.1.11-13 横浜）

- ・学園祭における栄養アセスメント前後の行動変容に関する検討 出口小春ほか

【第66回日本栄養改善学会学術総会】（2019.9.5-7 富山）

- ・東日本大震災における被災者の身体状況および栄養摂取状況（1）～震災前後の比較～ 赤嶺百子ほか
- ・東日本大震災における被災者の身体状況および栄養摂取状況（2）～仮設住宅・復興住宅居住者の比較～久保七彩ほか
- ・親子料理教室の体験が及ぼす子供の食生活への影響 木戸詔子ほか
- ・骨粗鬆症対策学習会における栄養指導方法の検討 中村智子ほか

【第67回日本栄養改善学会学術総会】（2020.9.コロナ禍に伴い誌上開催）

- ・学童期の偏食改善 — 保護者の偏食対応の観点から— 中山玲子ほか
- ・若年男性の骨密度の実態 ～骨粗鬆症対策の重要性～ 木戸詔子ほか
- ・高齢者の食に関する知識調査 ～主食・主菜・副菜と骨の健康に必要な栄養素～ 中村智子ほか
- ・大学祭における参加者の骨密度・体組成・食生活の実態調査 徳本美由紀ほか

II. 論文発表

これまで1件の原著論文、1件の実践事例報告及び1件の調査報告を発表した。

【原著論文】

- ・東日本大震災における仮設住宅に暮らす被災者の身体状況
久保七彩ほか 京都女子大学食物学会誌 73: 29-34, 2018

【実践事例報告】

- ・「高齢者の骨を守るための栄養ケア教室」への参加者を対象として、男女別に検討した食品摂取の多様性得点と骨量及び低栄養との関連
徳本美由紀ほか 日本栄養士会雑誌 65: 447-453, 2022

【調査報告】

- ・2011年3月11日の東日本大震災から4年経過後（2015～2018）の被災者の身体状況および食事内容
赤嶺百子ほか 京都女子大学食物学会誌73: 35-39, 2018

III. その他

学会発表や論文発表以外の場においても、本活動報告書内で、栄養クリニックの各事業について学術的観点からの報告や考察を行っている（メタボリックシンドローム、高血圧、貧血、骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、減塩、学園祭やイベント会場における参加者のアセスメントや健康意識の変化及び行動変容等）。

おわりに

大学の附属研究所でもある栄養クリニックは、食物栄養学科や他機関、地域と連携を図りながら、今後も臨床研究を中心に研究活動機能を高めていければと考えている。

(宮脇 尚志)